

滋賀大会のまとめ（第1 A分科会）

第1 A分科会は「教育課程に関する課題」として2本のレポート発表が行われました。

①今日的な課題を捉え、教育課程の充実を図る教頭のリーダーシップとは何か

～「組織」「運営」「連携」の取組を窓口として～

実践内容としては

- (1) 小中連携・一貫教育の推進
- (2) 60分授業『パワー60』の実施

教頭の指示や助言の下、試行錯誤を重ねながら『パワー60』の実践を推進している。これは学校の課題等を解決する方法の一つとしてパワー60が有効であることを確認。総合的な学習の時間においては探求的な学習を基本とする学習活動の特質を踏まえ、観察や調査等の学習活動について授業時間を45分から60分に変更することにより教育効果の高まりを期待している。火曜日の6限目に位置づけ、それにより生み出された時間を活用し、国語、算数の授業改善に資するミニ研修等を実施している。

- (3) 主幹教諭の有効活用

今年度旭川市の主幹教諭は小学校30校、中学校20校で配置されている。配置校の教頭は主幹教諭の業務について、校長へ積極的に具申をしている。教育課程の改善、充実に関わる主担当としている学校が多く、結果として組織的な活動が行われることに結びついている。

- (4) 働き方改革推進プラン

市教委から出されている『1週間当りの勤務時間が60時間を越える教職員を0にする』との達成目標が示された。1日当りの勤務時間を当面11時間までとする。

※成果：課題を明確にした全体研修会や各地区の研修会の実施により教頭の問題意識が高まり積極的な関わりによる各学校の取組の充実に繋がった。

②学力向上に向けた授業改善と学びの環境づくりのシステム構築に向けた教頭の役割

～学びを育む京丹波町メソッドの理念に基づいた研究と実践を通して～

実践内容としては

- (1) 京丹波町メソッドの推進概要

各小中学校の教員10名と教育委員会指導主事で構成10名の中に2名の教頭を配置し牽引役として町の研究をリードし、各校の校内研究会の充実を図るためのシステムを構築している。

※成果：教頭が自校の学力向上を推進する研究部と連携し、研修会を計画的に企画することで教職員の意欲が高まり、校内研究の質が高まることに繋がっている。